

2 国と県が手を取りあって、「総合運用」

相模川水系のダムは、国と神奈川県が連携して雨や雪などの降水を効果的に利用しています。県のダムの集水面積は、約1,200km²と大変広いのに対して、国の宮ヶ瀬ダムの集水面積は約100km²です。

また、貯水容量で比較すると、県の城山ダムと相模ダムの合計貯水容量は約1億m³であるのに対して、宮ヶ瀬ダムの貯水容量は約1.8億m³あり、県のダムの約2倍です。

つまり、県のダムは「水が貯まりやすいが、たくさん貯めることができない」、宮ヶ瀬ダムは「水が貯まりにくい、たくさん貯めることができる」

という特徴があります。

そこで、県のダムと宮ヶ瀬ダムとを、「道志導水路」と「津久井導水路」という二つの巨大な地下トンネルをつなぎ、効率よく水をやり取りしており、これを「総合運用」と言います。

このように、国と県のダムが連携して水の「総合運用」を行っている上に、下流に必要な水量を確保しながら、極力「無駄がない水運用」をあわせて行っています。この全国でも類を見ない、神奈川県独自のきめ細やかな水運用によって「湯水に強い相模川」を可能にしています。

3 相模川、酒匂川、ふたつをつなぐ導水ネットワーク

相模川水系の下流には「相模大堰」と「寒川取水堰」、酒匂川水系の下流には「飯泉取水堰」があり、これらの堰は、水門を操作することで河川の水位を一定に保ちながら安定的に取水を行う施設です。

酒匂川下流の「飯泉取水堰」から川崎市内の神奈川県内広域水道企業団西長沢浄水場までをつなぐ長大な導水管と、その途中で連絡している相模川水系の「相模大堰」からの導水管を利用することで、両水系の水利用に対してバックアップが可能とな

り、相模川水系と酒匂川水系の2水系間の水を相互に融通することができるのです。

この両水系をつなぐ導水ネットワークを利用して、県営水道のみならず横浜市の川崎市にも水を送っています。酒匂川水系は頼もしい後ろ盾のような存在です。

導水管のほとんどは、地下に埋まっているため、目にする機会はありませんが、「湯水に強い相模川」を支える縁の下力持ちです。



ホームページ「かながわの水がめ」では、県内4湖の貯水状況を毎日更新しています。



県のダムである「相模ダム・城山ダム・道志ダム」は、相模川水系ダム管理事務所が管理しています。これらのダムから流す水の量は、私たち水運用課の職員が365日24時間体制で監視調整しています。

ダムからの水は、相模川を通過して海に届くまでの間に堰で取水され、水道水になって皆さんのご家庭に届けられるほか、工業用水や田畑に引き込まれたりして減っていきます。しかし、河川は魚などの住処でもあるので、環境維持に必要な水量の確保も重要です。

水運用課では、皆さんが必要とする水量をきちんと確保できるように、国の宮ヶ瀬ダムとの総合運用や水道事業者の取水量について毎日緊密に連絡を取り合い、大切なダムの水のきめ細やかな水運用に努めています。



10時間以上先を予測
城山ダムから相模川を通過して一番下流にある寒川取水堰に水が届くまでには10時間以上かかります。そこで私たちは水が不足することがなく、また無駄にならないように、常に先のことを予測・計算しています。

「当たり前」を維持
きめ細やかな水運用を行うことで、今まで雨が少なくなっても湯水にならずに乗り切れてきたのが誇りです。各地に設置されている水位計、雨量計、流量計などの数値を眺

みながら、何時でも河川に必要な水が流れているという「当たり前」を維持し続けることが私たちの使命です。

感謝の気持ちを忘れずに
1日の勤務が何事もなく終わって、次の勤務職員にたすきを繋げられた時は本当にほっとします。こうして水の豊かな相模川でいられるのは、ダム建設の折から現在に至るまで多くの方々のご理解とご協力のおかげです。この感謝の気持ちを忘れずに、これからもしっかりと「かながわの水がめ」を守っていきます。

365日
24時間体制で
刻々と変わる
状況に対応する

神奈川の水守り人
相模川水系
ダム管理事務所

さがみの水

- 1・4面 ■特集：湯水に強い相模川 3つのヒミツ
- 2面 ■平成29年度の県営水道予算 ■各種お問い合わせ
- 3面 ■水道週間イベント ■水道記念館 夏のイベント ■水道100歳時代 ■プレゼントコーナー

相模ダム 貯水容量 4,820万m³ (昭和22年完成)
工業生産の増強や人口増加による水道使用量などの増大に対応するため、日本初の河川の総合開発事業により建設しました。

相模ダム建設70周年記念 第24回 相模湖ダム祭
平成29年 7.17 (月・祝) 9:30~16:00 参加自由
相模ダム・発電所見学、相模湖遊覧、講演(宮村忠尚東洋大学名誉教授)等
▶会場:県立相模湖交流センター(相模原市緑区与瀬259-1)他
▶問合せ:県企業庁水利課利水調整グループ TEL.045-210-7235

道志ダム 貯水容量 61.61万m³ (昭和30年完成)
相模ダム完成後、さらに水道使用量などを確保するため、相模川の支流である道志川の水を相模ダムに貯めるために建設しました。

三保ダム 貯水容量 5,450万m³ (昭和54年完成)
さらに急増した水道使用量などに対応するため、神奈川県、神奈川県内広域水道企業団及び東京電力株式会社が共同で酒匂川に建設しました。放流した水は飯泉取水堰で取水します。

城山ダム 貯水容量 5,120万m³ (昭和40年完成)
高度成長期の水道使用量などの急増に対応するため、神奈川県、横浜市、川崎市及び横須賀市が共同して、相模ダムの下流に建設しました。放流した水は寒川取水堰で取水します。

宮ヶ瀬ダム 貯水容量 18,300万m³ (平成13年完成)
さらなる経済発展を支えるため、建設省(現国土交通省)が相模川の支流である中津川に、芦ノ湖と同程度の貯水量がある首都圏最大のダムを建設しました。放流した水は相模大堰で取水します。

かながわの水がめ総合運用のしくみ

ダムは先祖伝来の住み慣れたふるさとを
提供して頂いた水没移転者の皆さまのご
理解とご協力によりつくられています！



1 県内のダムで
水道水を
自給自足

神奈川県は、水道水の約9割を相模川水系と酒匂川水系の2つの水系から取水しています。残り1割の水源も県内にあり、水道水を自給自足することができています。水系とは、本川と支流を含めた河川や湖を合わせた水の流れのことで、それぞれの水系にはダムがあり、相模川水系に相模ダム、城山ダム、道志ダム及び宮ヶ瀬ダムがあり、酒匂川水系に三保ダムがあります。宮ヶ瀬ダムは国が管理していますが、その他のダムは神奈川県が管理しています。

昨年、首都圏の利根川水系では「水不足」が大きなニュースになりました。しかし、神奈川県では水の安定供給に全く問題はありませんでした。これはどうしてなのでしょう。本号では、神奈川県特有の安定した水道水の供給の裏側をご紹介します。みなさんはいくつご存知でしょうか？

湯水に強い相模川 3つのヒミツ